

体験談 4

『ひまわり学園へのコンタクト』

私は子供の成長のモヤモヤに気づいたのは、海外赴任中の事でした。かかりつけのクリニックの先生には、それとなく「何か他のお子さんと違う、それこそ二歳上の姉とも何か違うのですが。」と本人が一歳の頃、相談していた事がありました。でも、いかんせん英語での説明なので、私の英語力ではニュアンスも伝わりづらく不安はありました。当時、主人も毎晩帰りが遅く、息子と接触する時間も少なかったので、私の漠然とした不安をいまひとつ、共有する事も出来ず、こんなもの、と捉えていた事もあり（私の中にも、その気持ちになかったわけでもありませんでしたし）なので、英語の出来る主人にもそれを説明してもらえないまま、月日は過ぎておりました。

そして、息子が二歳の頃、夏休みの一時帰国をして、小児科医に相談に行った事がきっかけで、次の主人の赴任先には赴かず、子供と私だけ帰国する事を決めました。帰国してからは、私の中では生活する場所での相談が一番だと決めていたので、すぐに市役所に電話し、ひまわりを紹介して頂き、みてもらいました。

ひまわりの先生方は、よく来ましたね！とそれは温かく迎え入れて下さり、今まで張り詰めていた気持ちが少しだけ緩みました。この子の将来の事をどうしても考えてしまうので、どうなって行くんだろうという不安が大きく、そう簡単には緊張感が緩む事はありません。それは、今でもそうです。

でも、ひまわりへ行って、1週間の出来事を話して、保護者目線に立って一緒に喜んでくれて、考えてくれて、悩んでくれて、そこから励まして頂いた事は、その場限りの事かもしれませんが、私は次のステップを踏むリラックス出来る充実した時間だったと感じていました。

親は、ずっとずっと、その年代ごとでの悩みや課題と一緒にぶつかっていかなくてはならないので、次のステップを踏める力を蓄える事は、大きな事だと思います。その力を上手に与えてくれて、ひまわりの先生方には本当に感謝しております。

